

学校法人全国理美容中央学園 中央理美容専門学校における令和6年度の自己評価報告書に基づいて学校関係者評価を実施いたしましたので、以下の通り報告いたします。

開催日時：2024年7月24日（水）15：00～16：00

場所：中央理美容専門学校 1F 会議室

出席者

【学校関係者評価委員会】

木下 眞	後援会会長	KINOSHITA 会長
渡部 道夫	同窓会会長	ファッションヘアワタベ代表
竹橋 吉雄	P T A会長	ヘアーサロンスタイル代表
野口 昌宏	高根沢町議会議員	公認心理師
村上 信一郎	有限会社 feel	代表
村上 隼	卒業生	
赤石 大輔	卒業生	

【中央理美容専門学校教職員】

河合 靖臣	校長
田崎 顕二	事務局長
井山 和茂	総務課企画室室長
山口 敦子	教務課長・美容科教員
新井 由美子	教務課長代理・美容科教員
榎戸 博子	教務課・理容科主任
島田 直人	総務学生課主任・理容科教員
藤本 真里奈	総務課企画室主任

実施方法：令和6年度の自己評価報告書を基に、各基準項目ごとに説明と取り組みを聞き、評価を行った。

(1) 教育理念・目標

- ・学校関係者評価会議や後援会・同窓会・PTAの役員会等で、業界のニーズを捉えるため意見を聴取しているが、今後は幅を広げて関係企業（就職サロン）へのアンケートを実施することで、より具体的な課題が見えてくると考えられる。

(2) 学校運営

- ・学生からの要望や意見を聞く機会が少ないので、アンケートを実施して学生満足度を調査することで課題が明確になり、ネットへの口コミ対策にもなるのではないかと。

- ・教員がなかなか確保できないため、一人ひとりへの業務負担が多くなり、自己研鑽（研修）の時間を設けられていない。

(3) 教育活動

- ・特記事項無し

(4) 学修成果

- ・卒業生の動向調査はどのように行っているのか。
過去5年間については、各クラスの卒業生LINEを活用し、各年度の卒業生の動向を追跡できている。離職率についても把握できており、本校の離職率の低さを算定する基準となっている。

(5) 学生支援

- ・奨学金利用者や経済的に困難な学生はどれくらいいるのか。
シャインアップ制度による支援により、少しでも学生のためになるのであれば、後援会・同窓会としても支援した意義があった。
- ・保護者と連携して退学防止に努めている部分は少人数制ならではのメリットとして広報でも大きく打ち出していくべきである。

(6) 教育環境

- ・昨年度の会議にもあがっていた老朽化への対応が急務と考える。特にボイラーとシャンプー台については、シャンプー授業等にも影響が出てくるので早急な対応を望む。
- ・中央理美容の学生は他校生と比べても、挨拶・掃除に対する意識が高く、評価ができる。

(7) 学生の受入と募集

- ・高校訪問やガイダンスの参加により、本校の知名度や信頼感がアップされていると感じるが、SNS に対しても力を入れていくべきである。定期的な学校情報の配信により、高校生の目に付く内容により、オープンキャンパスの来校増につなげてもらいたい。

(8) 教育の内部保証システム

適切に実施されていると評価できる。

(9) 財務

- ・数年前に実施した学費値上げの効果により、黒字転換が予想できるが、より一層の入学者確保を行い、安定的かつ恒久的な運営ができるようにすすめてもらいたい。
- ・基本的に財務状況は健全に実施されていると判断できる。

(10) 社会貢献・地域貢献

- ・学校が率先して CSR 活動を行うことで、在校生にもボランティア精神の大切さが身につけられている。
- ・学生が率先して地域清掃に取り組む姿勢が育まれていると感じる。
- ・美容室登録した「ボニータ・ボニート」の活用により、地域の皆様に対してより一層の貢献ができる体制を整えてもらいたい。